

# 食品ロス実態調査の結果

「まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物」のことを**食品ロス**といいます。2019年10月に「食品廃棄物の削減に関する法律（略称：食品ロス削減推進法）」が施行され、全国的にも食品ロス削減に向けた取り組みが活発となっています。草加市においては、昨年に引き続き、市内の食品ロスの現状を把握するため、可燃ごみの中身を調査しました。

その結果、次のとおりとなりました。

**直接廃棄** 約17kg (19.7%)  
賞味期限・消費期限切れ、鮮度の低下、腐敗などにより、そのまま捨てられたもの

**食べ残し** 約12kg (13.8%)  
調理したが、食べられずに捨てられたものや、店で購入した総菜やお弁当の残りなど

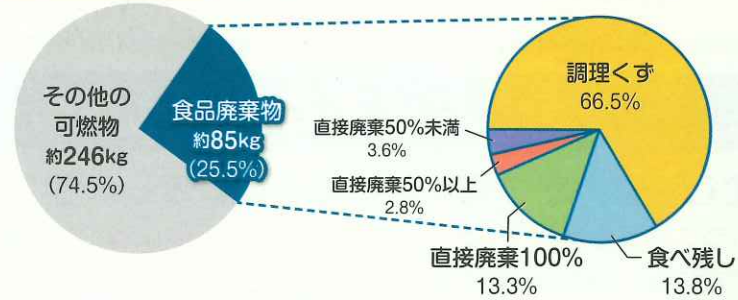
**調理くず** 約56kg (66.5%)  
調理する時や食事の時に取り除いた魚の骨や野菜・果物の皮、卵の殻など食べない部分



令和2年度食品ロス実態調査において実際に廃棄されていた食べ物の一部

## 収集した可燃ごみに対する食品廃棄物の割合

調査した可燃ごみの量 **331kg**



調査結果から推計した  
市民1人当たりの食品ロス  
1日あたり129g  
1年間で約47kg

市民1人あたり、  
毎日お茶碗1杯分の  
ごはんを捨てていること  
になります。

多くの食べ物が食べられるのに捨てられてしまうことは、とてももったいないことです。

減らすために 食品ロスを減らすためには、**①出されたものを、食べ切る②食材を、最後まで使い切る③食べる分だけ、買う**ことが大切です。この3つを意識して、食べ物を大切にしましょう。

## 役立つ 行政サービス

### せともの類の拠点回収（月2回実施） 令和3年4月からスタート

ご家庭で使用していたせともの類の拠点回収を令和3年4月から実施します。引越しやご家庭の片づけなどで不要となった、まだ使えるせともの類がある場合は、ぜひ「せともの類の拠点回収」をご利用ください。なお、引き取れるせともの類は、割れたり、欠けたりしていないもので、新品または、利用可能なものに限りです。

引き取り可能なもの



お茶碗・お皿・コップ等の新品またはそのまま使用できるせともの類

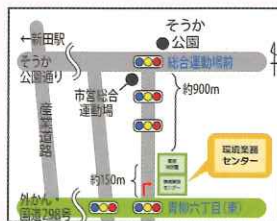
引き取り不可なもの



割れたり、欠けたりしているものや汚れが激しくそのまま使用できないせともの類

毎月第2日曜日  
草加市環境業務センター  
(青柳6-23-3)

時間:午前9時から午後3時まで



毎月第4日曜日  
草加市リサイクルセンター  
(稲荷1-8-2)

時間:午前9時から午後3時まで



※当日は古着古布、廃食油の拠点回収も実施しています。

※当日は古着古布、廃食油の拠点回収とリユース品の展示販売も実施しています。

再生紙を使用しています。



環境にやさしいベジタブルインクを使用しています。

# 草加市 クリーンふるさと

発行：草加市クリーンふるさと推進協議会 〒340-0002 草加市青柳6-23-3 TEL：048-931-3972

第22号

令和3年3月1日

# こんな時だから ゴミの出し方

新しい生活様式での

～正しいゴミの出し方で感染リスクを減らそう～



分別をしっかりとる



袋いっぱいになる前に捨てる



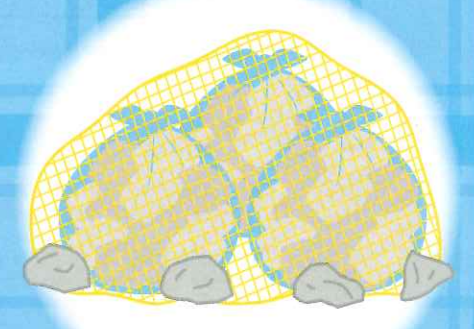
ゴミ袋はしっかりと縛る



生ごみは水を切る



マスクやティッシュは小袋に入れる



カラス除けネットを活用する

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う外出の自粛等により、昨年は家庭から出るごみの量が急増しました。集積所に出されたごみの中には、分別がしっかりしていなかったり、ごみが袋からはみ出ていたりすることもあります。

分別や出し方等、決められたルールに基づかずにごみが出された場合、収集作業員が直接ごみに触れることがあるため、**新型コロナウイルス等の感染症への感染リスクが高まります。**

収集時は手袋とマスクを着用するよう心がけていますが、**収集作業員の感染を防ぐためには、「出されたごみに直接触れることがないよう」に、ごみを出す側のご協力が大変重要です。**

このため、**ごみはしっかりと分別するなど決められたルールに基づいて、収集日の朝、明るくなってから8時までに出すことが大切です。**



## 家庭ごみを出す時に心がける5つのこと

### 1 分別をしっかりしましょう

分別ができていないものは回収されません。分別で分からないことがあったら草加市ごみ分別アプリや草加市ごみ収集カレンダーで確認しましょう。

Android 端末をお使いの方



Google play

iPhone をお使いの方



App store

ご活用ください

可燃ごみ



まずは基本から

不燃ごみ



資源物



### 2 ごみ袋は袋いっぱいに入れず、しっかり縛りましょう

袋いっぱいにごみが入っていると収集時に中身が飛散してしまい、飛散物を収集作業員が直接、触れることとなります。

このため、収集時にごみ

が飛散しないように、ごみ袋いっぱいになる前にこまめにゴミを出して頂くとともに、ごみ袋の口はしっかり結び、袋が破れていないか事前に確認してから集積所に出しましょう。



作業員への気遣い

### 3 マスクやティッシュは小袋に入れましょう

マスクやティッシュはウイルスが付着している可能性が高いことから、使用済みのマスクやティッシュを捨てる時は、小袋に入れ、しっかりと結んでからごみ袋に入れるようにしましょう。



感染リスクの抑制

### 4 ごみの発生抑制（リデュース）を心掛けましょう

生ごみの水を切るなどして、リデュース（発生抑制）に心がけましょう。

生ごみ処理容器等購入補助金交付制度あり詳しくはコチラ→



リデュースを意識しよう

### 5 ごみ散乱防止用ネット（カラス除けネット）を活用し、集積所をきれいに保ちましょう

きれいな集積所の管理

集積所のごみがカラス等により散乱している場合、収集作業員が直接、手に触れて収集することになります。散乱物を直接手で触れる行為は、**感染リスクが高まる**ため、ごみが散乱しないようにごみ散乱防止用ネット（カラス除けネット）を活用しましょう。



## カラスによるごみ散乱を防ぐためのひと工夫

### 生ごみが外から見えなくようにしましょう

カラスは視力が優れており、目で見えてエサを探します。このため、エサとなる生ごみなどは、新聞紙等で包み、袋の中央部に入れ、外から見えなくにして集積所に出しましょう。



### ごみ散乱防止用ネット（カラス除けネット）でごみをしっかり覆いましょう。

カラスがごみをつついて中身が散乱しないように、カラス除けネットでしっかりと覆って簡単に隙間ができないようにしましょう。

カラス対策及びネットの無償貸与について詳しくはコチラ→



こんな工夫も!

集積所は、利用者の皆様で管理をお願いしています。トラブルなどにならないよう、**協力し合って**適正に管理してください。

【実際の使用例】ペットボトルに水を入れ重石として利用

## ごみ収集作業員への心温まる手紙等の紹介

新型コロナウイルスへの感染リスクを身近に抱えながらもごみ収集を続けている作業員へ、温かな支援の言葉が届きました。収集時に寄せられた手紙や手作りの布マスクは、収集作業員の大きな励みになっています。

今後も、分別や出し方等、決められたルールに基づいて、収集日の朝、明るくなってから8時までに集積所にごみを出していただきますようお願いいたします。

